
関連施設

田上診療所

訪問看護ステーション 野の花

介護老人保健施設 わらび苑

訪問リハビリステーション事業所

院内保育所



関連施設

田上診療所

看護師 石堂 いみ子

田上診療所は、岩元二郎先生を中心に、事務長、看護師長、看護師5名、医事課3名、リハビリ(物療)2名の計13名のスタッフと非常勤医師とで協力しながら患者様への医療に携わっております。

田上診療所の魅力の一つでもある、スタッフと患者様の距離感が近いことは、長年地域の方々に寄り添い、信頼関係を築いてきているからだ、と、入職してつくづく感じました。そんな場面を実際に目で見て実感し、益々すごいなあと感じさせられるとともに、私もその一員として認められるようになりたいと思っております。

医療の現場から離れて約13年。ゼロからのスタートも早2ヶ月が経ちます。初日から自分の事で精一杯の私でしたが、周りのスタッフの皆さんに支えられ、一つ一つ丁寧にご指導頂いたおかげでこの2ヶ月頑張ることができました。

まだまだご迷惑をおかけすることも多いですが、向上心を持ち、一日でも早くスタッフの皆さんに追いつき、お役に立てるよう精進したいと思っています。



田上診療所院長 岩元先生の診療風景



訪問看護ステーション 野の花

管理者 榎本 親子

【令和3年度職員】

代表者／田上寛容

管理者／榎本親子

訪問看護師／西川秋代、鳥巢良子

理学療法士／原田寛治

作業療法士／立花 悟、中森純香



【令和3年度 野の花年間目標】

1.安全で安心できるサービス提供ができる。

- ①医療事故を起こさない。
- ②キャンディリングの履修をすすめる。
- ③研修会、勉強会に積極的に参加する。
- ④利用者、家族の意向を尊重し適切に対応する。
- ⑤感染対策を徹底し、訪問業務を継続できる体制を整える。

評価：医療事故は起こさなかった。

院内勉強会の参加率は昨年度を上回ることができたが、個々の希望に応じた研修への参加ができなかった。

利用者の意向の尊重については、今年度も本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会へ参加することができた。実践の場で、ご意見をいただくことがあったので振りかえりを行い活かしていきたい。業務継続計画は作成中。 達成率：70%

2.働きやすい職場環境を整える。

- ①ワーク・ライフ・バランスへの取り組み。
- ②野の花会議の実施(1回/月)。
- ③業務分担による業務負担の軽減を図る。

評価：休日や夜間の待機の負担について処遇改善できた。

2022年12月より訪問リハビリテーションが始動。野の花会議での意見交換はできていない。

業務分担は、現分担分については、各々が責任を持って行えている。

達成率：70%

3.個々が事業所の運営を意識した行動ができる。

- ①コスト意識を持つ。
- ②パンフレットなどを活用し、法人内、外にむけた情報発信を行う。
- ③事故を起こさない。

評価：コスト意識を持ち備品管理はできていた。

情報発信は法人の広報からのみで事業所主体の働きかけはなかった。

事故0達成。 達成率：70%

【実績】

登録者数:77名(令和3年3月31日現在)

訪問件数:4308件(令和3年度延べ件数)

【令和4年度 野の花年間目標】

- 1.利用者が安心できる安全なサービス提供ができる。
- 2.活気ある職場を目指し、働きやすい環境を整える。
- 3.事業所の運営に参加する。

業務について

訪問看護ステーション野の花では、“思いやりの心と技術を研鑽する真摯な姿勢で、住み慣れたお家や地域で安心して過ごせるように健康管理や日常生活の支援に努めます。”という理念のもと活動しています。野の花には、本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修を受講済みのスタッフもおりますので、在宅での生活を継続したい方、介護について不安・疑問がある方は、当事業所又はご担当のケアマネジャーへご相談ください。

介護老人保健施設 わらび苑

施設長 医師 松本 松昱

この度、わらび苑の施設長を拝命しました松本と申します。

私は、7年間の種子島医療センターでの勤務を経て現在に至りました。わらび苑のスタッフはとても働き者が多く、全員一丸となって入所者へのケアを日々一生懸命行っています。認知症の方にも温かくそして粘り強く接しており、深く感銘を受けました。

しかし現場の人員不足は深刻のようです。私は医師であるので、主に入所者の健康管理を主業務にしていますが、着任時は入所さんへのバイタル測定が十分に行えない現状でした。高齢の方や認知症の方は、不調の訴えをうまく伝えることが困難であり、だからこそ客観的に体調を把握できるバイタル測定は、異変の早期発見に必要不可欠なのです。さらにはコロナ禍でありますので、検温は必須です。

現場は精いっぱいやっていますが、十分なケアをするには、どうしてもバイタル測定まで手がまわらないため、これを打破するには私自らもバイタル測定を行うようにしました。医師になり四半世紀が過ぎましたが、バイタル測定の大変さを身に染みて感じております。

コロナ対策も着任早々に入苑者へのコロナ抗原検査をルーチン化して、感染委員会を中心に現在の対策を見直そうとしていた矢先に、感染者が発症してしまいました。種子島医療センターでのコロナ対策の経験を生かして速やかに対処し、被害は最小限に留められたと思います。

今後もコロナ感染対策は当苑の柱業務として、職員一同取り組んでいく予定です。

最後に、若輩者の私ではありますが、入所者が幸せになるよう、微力ではありますが尽力していく所存です。



訪問リハビリテーション事業所

【令和3年度職員】

種子島医療センター 理学療法士／田島 拓実、原田 寛司
田上診療所 理学療法士／内村 寿夫、上原 瑞生

令和3年11月1日に種子島医療センターと田上診療所に訪問リハビリテーション事業所を同時開設しました。開設前は訪問看護ステーション野の花からの訪問リハビリを提供しておりましたが、よりリハビリテーションに特化した訪問リハビリを提供したい強い思いから事業所開設につながりました。開設したばかりの事業所ですが、利用者や地域の方々が安心して住み慣れた場所で生活できるようにスタッフ一丸で支援できるように励んでいきたいと思えます。

【訪問リハビリテーションについて】

訪問リハビリテーションとは、利用者様の実際の生活場面にお伺いして、日常生活の自立と家庭内さらには社会参加の向上を図る。利用者様と自宅環境との適合を調整する役割を持ち、自宅での自立支援を行う。実際には、心身障害・生活障害・住環境を確認して自宅生活の中で利用者自身の機能維持・向上を図りつつ、医療機関では行うことができない実際の生活場面に即した能力的な部分へのアプローチを行っていくことができるサービスとなっております。

【法人事業所】

- 種子島医療センター 訪問リハビリテーション
- 田上診療所 訪問リハビリテーション

【対象となる方々】

- 介護認定を受けた方(要介護認定、要支援認定)
- ※主治医が訪問リハビリテーションを必要と認める事が必須となる。
- ※小児や難病疾患の方は医療保険対象となる為、訪問看護ステーションからの訪問リハビリテーションの適応となります。

【利用方法について】

- ①「訪問リハビリテーションの希望」本人・家族の希望または主治医からの勧めなど
↓ ⇒まずはケアマネジャーや『訪問リハビリテーション事業所』へ直接相談
- ②「相談」ケアマネジャーまたは主治医から訪問リハ事業所へ依頼・相談
↓
- ③「依頼」担当者がケアマネジャーへ連絡
↓ ⇒サービス開始までの流れ、依頼内容の確認等
- ④「担当者事前訪問」担当者が利用者宅へ事前訪問
↓ ⇒サービス提供内容・契約書・主治医への指示書依頼などの説明
- ⑤「指示書依頼」主治医への指示書依頼。事前に主治医へ受診日や依頼内容について

↓ ⇒ケアマネジャーまたは訪問リハスタッフから説明と依頼を連絡

⑥本人と家族が受診時に、訪問リハビリテーション指示書を発行

↓

⑦「訪問リハビリテーション開始」主治医から訪問リハビリテーション指示書(最大3ヵ月有効)を

⇒訪問リハスタッフが頂き、その後、訪問を開始する

【種子島医療センター 訪問リハビリテーション】 スタッフ数:2名

種子島医療センター訪問リハビリテーション副主任の田島です。当院訪問リハビリテーションは、西之表エリアを訪問させて頂いております。訪問依頼を受けた際は、すぐに訪問ができるよう努めて参ります。ぜひ、当院訪問リハビリテーションをご利用ください。



【田上診療所 訪問リハビリテーション】 スタッフ数:2名

田上診療所訪問リハビリテーション副主任の内村です。令和3年12月から田上診療所訪問リハビリテーションは、中種子・南種子エリアを訪問しています。地域に根差した訪問リハビリテーションを提供できるよう努めています。中種子・南種子エリアで訪問リハビリテーションを検討の方はお気軽にご連絡ください。



院内保育所

主任 大木 鈴香

徳永純子 新原祐子 上妻明香 中村智美 北村幸奈

保育所では、0歳から2歳の子どもを中心に24時間保育を行っています。昼間は、みんなでおやつやご飯を食べたり、散歩に出かけたりしています。お母さんが夜勤の時は、お泊りです。みんなが帰った後、先生とご飯を食べ、歯磨きをして、シャワーをして、21時くらいにおやすみです。

お泊りが一人でも寂しくないように、好きなおもちゃで遊んだり、先生とゆっくりお話ししたりしています。子どもはすごいもので、泣いたりする事もなく、ご飯の次は歯磨きしてシャワーだと自ら動いたり、眠たくなったら布団へ行くと知らせてくれたりします。トントンしてもらいながら寝ていく姿を見ているととても感動します。

子どもたちが寝ている間も、事故のないように、呼吸や顔色を10分おきに確認したり、仰向けに体勢を変えたり、常に気を配り見守っています。

24時間、子どもたちが元気で安全に過ごせるように、そしてお母さんが安心して働けるように、職員一同頑張っています。



節分



金太郎



お花見



時の記念日





水遊び



ひまわり



ハロウィン



干支



クリスマス

